

2023年度

全国高校野球OBクラブ連合総会 議事録

日時 2023年11月10日(金曜日) 13:00～16:00

場所 ホテルヒューイット甲子園・鳴尾の間(1階)

<議題>

- 1) 2022年度全国高校野球OBクラブ連合事業報告
 - 資料1-1: 全国高校野球OBクラブ連合加盟校一覧
 - 資料1-2: マスターズ甲子園2022本大会プログラム
 - 資料1-3: マスターズ甲子園2022本大会リリース資料
- 2) 2022年度全国高校野球OBクラブ連合決算報告
 - 資料2-1: 全国高校野球OBクラブ連合2022年度決算報告
 - 資料2-2: マスターズ甲子園実行委員会2022年度決算報告
- 3) 2023年度全国高校野球OBクラブ連合事業報告
 - 資料3-1: 全国高校野球OBクラブ連合加盟校一覧
 - 資料3-2: 全国高校野球OBトーナメント結果報告(ガイドブック)
 - 資料3-3: マスターズ甲子園2023本大会プログラム
 - 資料3-4: マスターズ甲子園2023本大会リリース資料
- 4) 2023年度全国高校野球OBクラブ連合途中決算報告
 - 資料4-1: 全国高校野球OBクラブ連合2023年度途中決算報告
 - 資料4-2: マスターズ甲子園実行委員会2023年度途中決算報告
- 5) マスターズ甲子園2024-2026シリーズ・申請枠募集結果について
 - 資料5-1: 2024-2026シリーズ概要
 - 資料5-2: マスターズ甲子園2024・2025申請枠募集結果
 - 資料5-3: マスターズ甲子園2024申請枠抽選方法
- 6) 2024年度全国高校野球OBクラブ連合事業計画について
 - 資料6: マスターズ甲子園2024本大会プログラム案
- 7) 2024年度予算案について
 - 資料7-1: 全国高校野球OBクラブ連合2024年度予算案
 - 資料7-2: マスターズ甲子園実行委員会2024年度予算案
- 8) 次期(2024-2025)役員選出案について
 - 資料8: 2024-2025年度全国高校野球OBクラブ連合役員案
- 9) その他
- 10) マスターズ甲子園20234申請枠確定および組み合わせ抽選会

<補足資料>

マスターズ甲子園2023ガイドブック

○定刻より全国高校野球OBクラブ連合 長ヶ原 誠 理事長（以下、理事長と称す）の司会で、2023年度総会開催の挨拶を行い、総会を開催した。

1、全国高校野球OBクラブ連合 戒能 副会長 挨拶。

多湖会長が欠席のために挨拶。2023大会は20回記念大会として開催される。本日の総会にご出席をして頂きそして日頃は加盟校の拡大に向けて尽力いただき感謝しています。今年度のマスターズ甲子園2023大会を素晴らしい大会にする為に皆様の協力をお願い致します。振り返ると4県82校からスタートをして今年で20年目。43都道府県、加盟校716校の加盟に成長しました。道半ばとして全ての都道府県に加盟して頂けるように組織拡大に向けて何卒協力をお願いしたい。また、20回記念大会は10回大会と同様に東日本、西日本代表校3校ずつが明後日に甲子園球場でトーナメント試合を開催します。ブロック大会、東日本大会、西日本大会でご協力いただいた各都道府県の役員の皆様にも感謝致します、県代表及びトーナメント大会に出場される皆様方に素晴らしいプレイを期待します。昨今は少子化が進んで人口減少、子どもの野球離れ、高校の統廃合が聞こえてくるが、私たちにできることは、「甲子園という夢を追いかける」、その背中を子どもたちに見せて子どもたちに野球の楽しさ面白さを伝えていくそれが我々の役目です。組織拡大に向けてご尽力いただきたいと述べられた。

2、定足数の確認。

理事長より、加盟都道府県43、総会出席30、委任状受理10、総数40との報告で、総会出席者及び委任状受理で40であるので、全国高校野球OBクラブ定款30条の総数の3分の1以上の出席があり、本総会は成立するとの報告があり承認された。

3、議長選出。

理事長より自薦・他薦により推薦を求めたが理事会一任との事で理事会より高山理事（関東ブロック、神奈川県）（以下、議長と称す）を議長として選出し承認された。

4、議題確認。

議長が席に着き議題の確認をして議事進行に入る。

○議 題

1. 議題1、2022年度全国高校野球OBクラブ連合事業報告

○資料1-1：全国高校野球OBクラブ連合加盟校一覧

○資料1-2：マスターズ甲子園2022本大会プログラム

○資料1-3：マスターズ甲子園2022本大会リリース資料

理事長より、資料1-1、1-2、1-3を一括説明で、

資料1-1では、昨年度の事業報告として43都道府県713校の加盟があり、これは現在の日本高等学校野球連盟の加盟校である3818校の5分の1を超え

たと報告がされた。

また資料1-2では、(朱色で記載の)各リーグでの予選大会での運営、選抜の方針によって各リーグ代表合計20の代表OBチームを選出いただき、各都道府県の加盟校の活動に対しての感謝の言葉があり、1日5試合ずつを2日間、計10試合開催、まだコロナの影響で少し制限が残っていたが、第19回大会を無事に終了したと報告がされた。

資料1-3では、第19回大会のリリース資料について、特に注目は、⑦の第102回全国高校野球選手権大会世代の高校球児が15名参加した事の報告と、後輩の球児たちを我々先輩がひたすら応援していく102回世代の支援を続けていく必要があるので、引き続きバックアップをお願いしたいとの報告があり、議長より報告事案とのことで承認された。

2. 議題2、2022年度全国高校野球OBクラブ連合決算報告

○資料2-1：全国高校野球OBクラブ連合2022年度決算報告

○資料2-2：マスターズ甲子園実行委員会2022年度決算報告

理事長より、資料2-1、2-2の一括説明で、

資料2-1では、収入合計6,810,000円(新規加盟170,000円・年会費6,640,000円)、支出合計6,626,021円(マスターズ甲子園2022大会補助費4,675,731円・総会関連費912,860円・事務局運営費151,000円・理事会関連費886,430円)で、貯蓄費170,000円・予備費13,979円・支出総額6,810,000円との報告がされた。また、2022年度までの積立合計金額は3,139,655円と報告がされた。

資料2-2では、収入の部について、途中決算報告時から1.大会補助費と8.収益金収入の写真販売収入が増え、収入合計22,223,287円、前年度繰越金4,037円を合わせ、収入総額22,227,324円との報告、支出の部について、途中決算報告時から1.甲子園球場会場費の、清掃代・衛生管理費で多少増加、2.大会広報・印刷・諸準備はOBクラブ連合大会補助費と同額、と3.大会運営費の、ボランティア関連費及び保険料にて増加があり、昨年途中決算報告時から約10万円増加となり合計4,188,877円、4.大会事務局費の、WEBインフラ・制作関連費が多少増えたが、その分会議をオンラインで開催することで実行委員会会議費を抑え、大会事務局経費全体としては予算内の執行ができ、支出合計22,201,054円・予備費26,270円、支出総額22,227,324円との報告がされた。

監査報告に進み、監査役の北野賀大氏より帳票等を精査した結果、適正に処理されている事の報告がされ、質疑応答はなく拍手をもって承認された。

3. 議題3、2023年度全国高校野球OBクラブ連合事業報告

- 資料3-1：全国高校野球OBクラブ連合加盟校一覧
- 資料3-2：全国高校野球OBトーナメント結果報告（ガイドブック）
- 資料3-3：マスターズ甲子園2023本大会プログラム
- 資料3-4：マスターズ甲子園2023本大会リリース資料

理事長より、資料3-1、3-2、3-3、3-4の一括説明で、

資料3-1では、11月10日現在で43都道府県716校の加盟校まで拡大し、甲子園改築、震災など多くの困難も乗り越え各OB校を取りまとめながら各都道府県リーグの組織化、予選大会の運営にご尽力いただき皆様の強力なリーダーシップ、選手の方々の強靱なスタミナに心から敬意と感謝を述べるとともに、20回大会という節目に過去最高となる規模での開催となり、計34リーグ（朱色）で予選大会が実施されたと説明された。

資料3-2では、第20回記念・全国高校野球OBトーナメントについて、全体で6つの各ブロック大会を6名の理事統括のもと開催でき、西日本（近畿ブロックが主幹）、東日本（関東ブロックが主幹）、各ブロックを勝ち抜いた代表チームによる激戦を支えて頂き、それぞれのベスト3が出そろった事、本大会2日目の日曜日の第五試合、東西対決の日本一が決定する事が説明された。

資料3-3では、明日の大会概要について、代表OB校の顔ぶれを示しており各都道府県の代表校の試合は1日目の5試合、2日目の最初2試合、そしてその後にブロック代表チームが第3試合から出場します。そして今大会、春夏秋で初出場は、兵庫県代表の伊丹北OBで創設以来初の甲子園出場。全体で最年少18歳から86歳まで大会史上最多の939名の元高校球児が登場、その中で高校時代に土を踏めなかった球児は798名、今回のボランティアは450名と説明があり、質疑応答はなく拍手をもって承認された。

4. 議題4、2023年度全国高校野球OBクラブ連合途中決算報告

- 資料4-1：全国高校野球OBクラブ連合2023年度途中決算報告
- 資料4-2：マスターズ甲子園実行委員会2023年度途中決算報告

理事長より、資料4-1、4-2を一括して説明があり、

資料4-1では、収入の部について、6,830,000円（新規加盟150,000円・年会費6,680,000円）、支出の部については表中の1～4のいずれの項目においても当初の予算額通りに執行されており、支出合計6,678,896円・予備費1,104円計上の見込みで貯蓄費（＝加盟費）と予備費を合計した、151,104円を2023年度の積立金とし、2012年度から2022年度までの積立金と合計して合計3,290,759円、これを第20回記

念大会関連費に予定通り充当しており、ブロック大会開催費、東日本大会開催費、西日本大会開催費はいずれも当初の予算額より諸経費を抑えた額となり、予選大会補助費・本大会関連費は予算額をやや上回った額となっているが、最終的には積立金内で執行ができているとの説明があり、結果的に予備費266,824円を来年以降の積立金に繰り越す見込みと報告された。

資料4-2では、収入の部について、1. 大会補助費はOBクラブ連合の途中決算額をそのまま記載、5. 協賛金収入は、サントリーが「金麦」から「生ビール」へ銘柄変更し、1,400,000円→1,000,000に減額、また新規特別協賛社が発生せず、計1,400,000円減となったため、7. 助成金収入の研究助成金として1,400,000円を計上、8. 収益金収入はガイドブック販売・写真販売収入は球場販売やWEB上での販売が増加する見込みであり、当初の予算額も維持で出来るようにして収入総額21,864,829円との報告がされた。支出の部についてはいずれの項目も予算額から大きな増減はなく大会開催にかかる諸費用として執行できているが、収入が当初の予算を下回っているため、その手立ては4. 大会事務局費の実行委員会会議費・事務局運営関連費で、会議をオンライン開催にする等で抑え、最終的には、支出合計21,841,663円・予備費23,166円の見込みとの報告があり、質疑応答はなく拍手をもって承認された。

5. 議題5、マスターズ甲子園2024-2026シリーズ・申請枠募集結果について

○資料5-1：2024-2026シリーズ概要

○資料5-2：マスターズ甲子園2024・2025申請枠募集結果

○資料5-3：マスターズ甲子園2024申請枠抽選方法

理事長より、資料5-1～5-3の一括の説明があり、

資料5-1では、資料の左から2024年度は合計24リーグ、2025年度は6リーグからの応募があり、総会の最後に2024大会の24リーグから20リーグの申請枠の抽選を開催して確定することが説明された。又、抽選に漏れた4リーグは2025大会申請枠へ同時に確定することが説明された。つまり6リーグ（宮城・秋田・福島・群馬・鳥取・高知）とあわせた合計10リーグとなり、2025年の左半分（赤い枠）が確定となり、2025年の右半分（青い枠）、2025大会追加枠10枠は、今回の申請で2025大会に申請した6リーグと、本総会後の抽選会の結果によつての2025大会に確定する4リーグ以外の都道府県リーグが対象となり、2024年9月20日をまでに、本連合事務局に申請をお願いしたいとの説明がされた。

資料5-2では、2023年9月22日までに登録申請があった各リーグのチーム登録数を記載、抽選方法（表2）はこれまで同様の表数基準となり、申請時の

登録数の多さによって1～5票、また高野連加盟校数を分母としたチーム数の割合6割超えると1票を加味される説明がされた。

資料5-3では、その結果を示しており、24リーグを登録チーム数が多い順から記載しており、熊本、愛媛、奈良、徳島は、チーム数が高野連加盟校数をいずれも6割を超えているので1票追加となっており全て加算し合計票となり、この票数をもとに各リーグの代表者が自ら抽選を行なうとの説明がされた。

○質疑

○徳島県、中川様より、

2024-2026シリーズで、2024大会・2025大会の申請枠について理解、2026大会はブロック枠を掲げているようだが、これをもし3年おきにやろうとしたら、300万円近くの大会運営費が必要で財政的に問題ないのか。また、マスターズ甲子園は日本一を決める大会ではない気がしており、1校でも多くの元高校球児が参加するのが良いのではないか、地域貢献、器具の寄贈、社会貢献しているチームはあると思うので、21世紀枠のような枠を設け、プレゼン、書類審査、抽選などで選ぶなど、強さではなく地域貢献やっているチームに出場出来る機会を考えてほしいとの意見があった。

理事長より、

日本一大会を行うことについて、当初から10回、20回、30回の節目の計画で進んでおり、30回大会では東西大会を実施する旨、ブロック枠については各予選大会の数が増えており、甲子園のできる試合数が限られてしまうなかで、各都道府県リーグ、各ブロックで勝ち上がり、3年に2回は甲子園を目指す事を何とか担保できないかということ、日本一ではなく予選大会が甲子園に繋がる様なそういう試合を開催して行きたいということで設けたとの旨の説明がされた。財政的には、今回のブロック枠については関東や九州は独立して大会を実施しており10年後に向けてお願いとしては出来るだけ財政面でも各ブロックが主体として実施して頂きたいが、もし補助が必要であれば今後事務局でも検討をしていくと説明して了解を頂き、その他の質疑応答はなく拍手をもって承認された。

6. 議題6、2024年度全国高校野球OBクラブ連合事業計画について及び

議題7、2024年度予算案について

○資料6：マスターズ甲子園2024本大会プログラム案

○資料7-1：全国高校野球OBクラブ連合2024年度予算案

○資料7-2：マスターズ甲子園実行委員会2024年度予算案

理事長より、資料6、資料7-1、7-2の一括の説明があり、

資料6では、来年度の21回大会のプログラムは11月中2日間の予定で雨天順

延日も含めて2024年3月上旬ごろ最終決定して速やかに各リーグにご連絡をする旨、今年度と同様の2日間10試合の開催でこの後の抽選で組み合わせは確定をすると説明がされた。

資料7-1では、来年度のOBクラブ連合の予算案について、収入の部は今年度の途中決算を参考にして、新規加盟費15校分、年会費686校を想定して、合わせて収入総額7,010,000円を計上との報告、支出の部はいずれの項目に於いても2023年とほぼ同額の予算だが、1.大会補助費で主にボランティア人数の増加を加味して、2,950,000円を計上、4.理事会関連費の会議費で可能な限り対面で開催したく、又、各担当ブロック内での調整やご指導の為に今後の理事の方々の活動が増加する事を想定し、970,000円を計上した結果、支出総額7,010,000円との報告、積立金は30回大会に向けてこれまで同様、新規加盟費をそのまま積立金に充当する事を承認して頂いているので、2023年度の予定繰越金266,824円をベースにして、来年の加盟費を合わせた合計416,824円を計上との報告がされた。

資料7-2では、実行委員会の予算案について、収入の部は、2023年度予算案から比較的変動のあるものは、3.キャッチボール参加料で、2日間開催の予定で最大160ペア合計640,000円を計上、5.協賛金収入で今年の協賛社継続を前提に、新規協賛社の交渉を進めて1,000,000円を計上、収入合計22,170,000円に、今年度途中決算から見込まれる前年度繰越金23,166円を加えて、収入総額22,193,166円となり、支出の部は、2023年度とほぼ同額の計上となっているが、全体の収入総額が昨年度より多少下回った額になっているため、4.大会事務局費を抑えての予算案として予算範囲内の執行に努めていきたいと報告があり、質疑応答はなく拍手をもって承認された。

7. 議題8、次期（2024-2025）役員選出案について

○資料8：2024-2025年度全国高校野球OBクラブ連合役員案

理事長より、資料8の2024-2025年度の役員選出案について説明があり、本連合初代会長 樽谷特別顧問、第2代会長 高橋顧問には引き続き本連合顧問としてご指導をお願いして、新たに多湖現会長には次期顧問として引き続き本大会のご指導をお願いしたい旨、そして次期新会長として報徳学園高校野球部OB会会長の平塚 正様を本連合会長としてお迎えしたく先日の理事会でご提案し承認をいた旨、さらに6つのブロックについて1名ずつ選出された役員候補の役職案についても各都道府県の加盟にあたりご尽力と各ブロック大会運営においてリーダーシップを発揮して頂いた事を踏まえ、役員が続投と共に、次期の役員として原案（資料8：戒能副会長、長ヶ原理事長、前崎副理事長、高山副理事長、宝槻

理事、小川理事、北野監事)の通り、各役職就任について理事会で承認されたことが説明され、理事会に一任という声があり、質疑応答はなく拍手をもって承認された。

8. 議題9、その他について

(全体を通しての質疑応答、今年各ブロック大会・東日本大会・西日本大会開催の上での苦労話、意見など)

○質疑

○和歌山県、高出様より、

近畿ブロック大会・西日本大会、を和歌山で開催できたが審判の対応が残念だったのでよりよい大会になるためにご意見を述べたい。9月の西日本大会にて、ある審判が試合5分前に出てきて「バッターボックスの線がゆがんでいる。誰が引いた？」と言われ、納得がいかなかった。その後、その審判の後輩がラインを消して再度引いていたがそれがさらにゆがんでいた。言い方もあったと思うが別場面では、バッターボックスの線がぶれているとジャッジがぶれるとも言っていたようだ。そして、その審判は、主審はもちろん塁審もされなかった。審判の言動1つ、運営の一言で、気持ちが左右されてしまうことを知ってほしい。

高橋顧問より、

私も和歌山県で実際に感じた。審判の方がネット裏で固まっていて仕切る方がいていい感じに受けなかった。ネット裏で見たが同感。

議長より、

来年からは新しい気持ちで。私たちも審判もボランティアでやっている。少しの気遣いが必要でボランティアも審判も運営側も気を付けていかなければいけないという事を改めて認識していきましょう。

理事長より、

マスターズ甲子園本大会の審判員でもあるので、私から直接思いを共有する事とします。以上で質疑応答はなく拍手をもって議案は終了した。

9. 議題10、マスターズ甲子園2024申請枠確定および組み合わせ抽選会

○マスターズ甲子園2024大会の組み合わせ抽選会を行い、下記の通り決定し承認された。

第1日目(土曜日)

第2日目(日曜日)

第1試合	埼玉県代表	対	愛知県代表	第1試合	大阪府代表	対	徳島県代表
第2試合	長野県代表	対	沖縄県代表	第2試合	島根県代表	対	熊本県代表
第3試合	岩手県代表	対	宮崎県代表	第3試合	北海道代表	対	岐阜県代表

第4試合 愛媛県代表 対 広島県代表 第4試合 奈良県代表 対 東京都代表
第5試合 福岡県代表 対 三重県代表 第5試合 兵庫県代表 対 鹿児島県代表

以上を以って議案の審議が終了したので議長は全議案の承認を出席者に確認し終了を宣言し、高橋顧問の閉会の挨拶の後、15時13分に閉会した。

尚、議事の経過並びに結果を明らかにするために、議長である高山（神奈川県）が本議事録を作成し及び総会出席者の下記2名と計3名の署名押印をする。

5年11月21日

議事録作成者

高山伸紀

(神奈川県)



5年11月27日

議事録署名人

藏重俊男

(北海道)



5年12月2日

議事録署名人

花倉伸一郎

(鹿児島県)

